

学生からみた AP プログラム

日本赤十字九州国際看護大学

演者1 看護学科3年 近藤真生, 演者2 看護学科3年 尾崎りょう, 演者3 看護学科3年 清水 美芽

1. はじめに

AP プログラムが導入された翌年に入学した私たちにとって、大学環境や授業科目はごく日常的で当たり前の感覚で学生生活を送っていたが、本年度が最終年度であることや、就職活動、統合実習の準備ということも重なって、卒業を目前としたときに就職先の方々がどのくらい私たちがごく当たり前に使っている言葉や意味を理解してくださるのかを考えてみた。

そこで、学生の立場からみた AP 事業について整理し、ここに報告したい。

2. 良かったこと

ラーニングコモンズのスペースで学習が行えることやホワイトボードが使用できること、PROG テストの結果や GPA の結果が自分の携帯から即座に把握できることによって、どのくらいの能力が身についているのかが可視化できるのが良い。自身の能力を把握しているので、就職した後に教育担当の看護師はきっと新人指導しやすくなるのではないかと考えた。

クリティカルケア関連科目では、事例を用いてグループで協力しながら知識がつけられ、不足部分は互いに補い合うことが出来た。看護過程はグループワークしたものを最後にポスター形式で発表しあった。自分たちが考え付かなかった内容を知り、学びを深めることが出来た。これは主体的な学修であると感じた。

GPA を見ることによって、自分の成績に関心が持てるようになった。学年内順位は関心が深いしモチベーションにつながる。ゼミの先生から成績が悪いと言われても「勉強の仕方が分からない」と感じる学生もいるので、勉強の仕方に関する様々な提案をしてもらえるチャンスにもなるのではと思う。

3. 気になっていること

看護系大学では私たちが AP 事業のテーマVに関する最初の大学なので、入職したら他大学出身の卒業生と比べて、DS に対してどのくらいの考慮があるのかについて関心を寄せている。就職試験の時や内定が決まった時点で早めに DS を見ていただき、卒業生一人一人の個別性をご理解いただいたうえで、助言を受けながら成長したいと思っている。そのようなシステム作りが就職施設に作られているかが在生学生には見えない点が気がかりである。

また赤十字病院以外に就職した場合、DS に対してどのくらい就職先病院が関心を寄せてくれるのかも気になっている。そういった情報が学生にはまだ伝わっていない現状がある。

アクティブラーニングによる授業ですよ、と先生がおっしゃる科目もあるが、何を狙ってアクティブラーニングとしているのか目的が見えない科目もある。主体性を重んじると言っても、頑張ってる学生とそうでない学生が混在した中でのグループワーク等の場合、果たして本当にこれがアクティブラーニングなのか、疑問に感じることもある。そういう場合、授業評価アンケートに建設的な意見を書くようにして、それを先生方が見たうえで授業改善がなされているのであれば、コメントをした効果もあると思う。

4. 先生方に望むこと

学年の順位は学生にとって大きな関心事なので、勉強が進んでいない学生に対してゼミ等で個別に対応して学修が進むようにしてもらいたい。DS に関する様々なカタカナ用語を熟知していない学生もいるので説明をして理解が深まるようにしてもらいたい。